

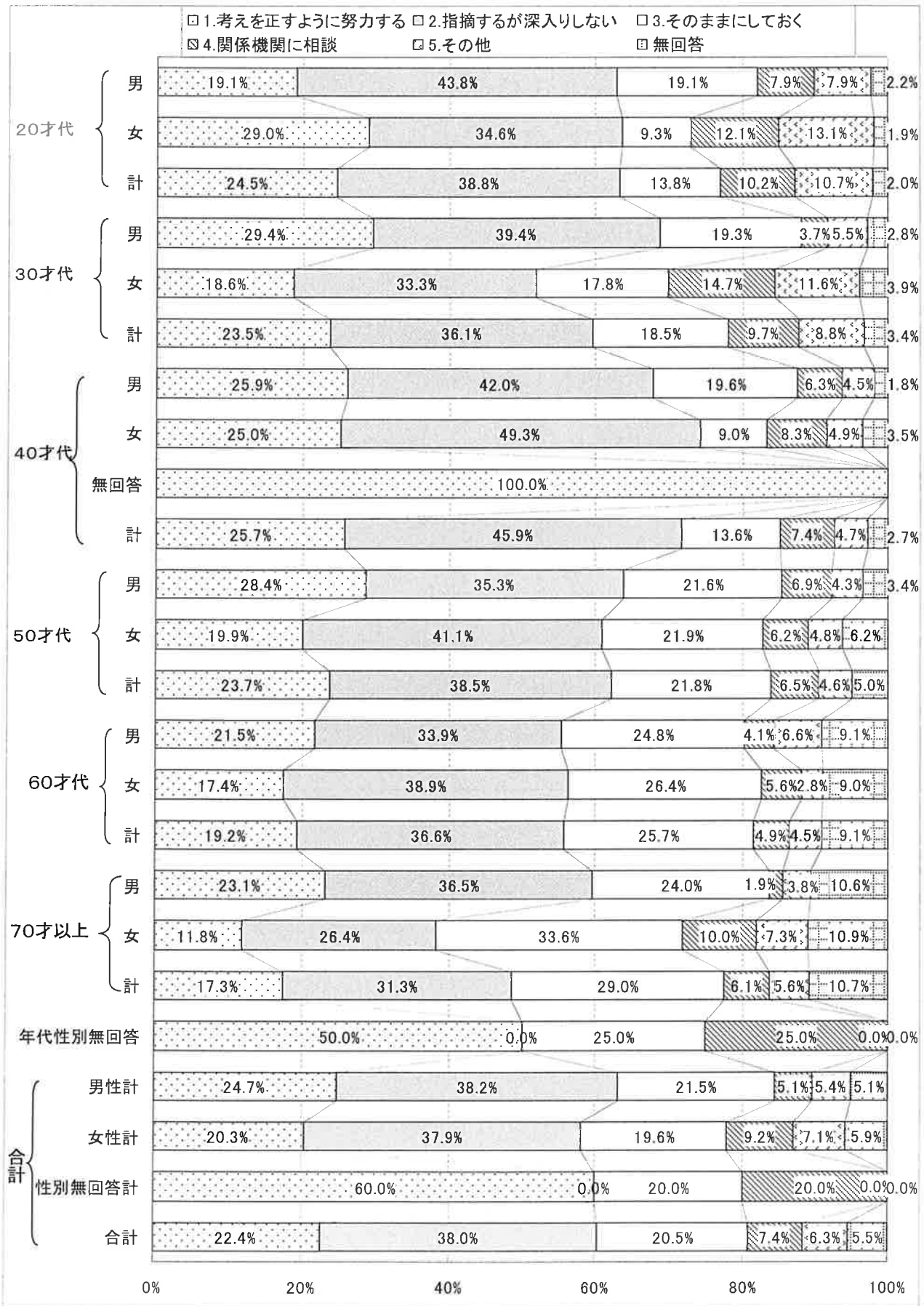
差別行為への対応について

質問 14 あなたの周りや親しい人の間で、差別的な発言や行為を見たり、聞いたりした場合どうされますか。あてはまるものを選んでください。(1つ)

- 1 その人の考え(間違い)を正すように努力する。
- 2 一応間違いを指摘するが、あまり深入りしないようにする。
- 3 気まずくならないよう、そのままにしておく。
- 4 身近な人や関係機関に相談する。
- 5 その他 ()

この質問は、直接または間接的に部落差別に遭遇した時の自らの対応について問うている。

		1. 考えを正すように努力する		2. 指摘するが深入りしない		3. そのままにしておく		4. 関係機関に相談		5. その他		無回答		合計
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
20才代	男	17	19.1%	39	43.8%	17	19.1%	7	7.9%	7	7.9%	2	2.2%	89
	女	31	29.0%	37	34.6%	10	9.3%	13	12.1%	14	13.1%	2	1.9%	107
	計	48	24.5%	76	38.8%	27	13.8%	20	10.2%	21	10.7%	4	2.0%	196
30才代	男	32	29.4%	43	39.4%	21	19.3%	4	3.7%	6	5.5%	3	2.8%	109
	女	24	18.6%	43	33.3%	23	17.8%	19	14.7%	15	11.6%	5	3.9%	129
	計	56	23.5%	86	36.1%	44	18.5%	23	9.7%	21	8.8%	8	3.4%	238
40才代	男	29	25.9%	47	42.0%	22	19.6%	7	6.3%	5	4.5%	2	1.8%	112
	女	36	25.0%	71	49.3%	13	9.0%	12	8.3%	7	4.9%	5	3.5%	144
	無回答	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
	計	66	25.7%	118	45.9%	35	13.6%	19	7.4%	12	4.7%	7	2.7%	257
50才代	男	33	28.4%	41	35.3%	25	21.6%	8	6.9%	5	4.3%	4	3.4%	116
	女	29	19.9%	60	41.1%	32	21.9%	9	6.2%	7	4.8%	9	6.2%	146
	計	62	23.7%	101	38.5%	57	21.8%	17	6.5%	12	4.6%	13	5.0%	262
60才代	男	26	21.5%	41	33.9%	30	24.8%	5	4.1%	8	6.6%	11	9.1%	121
	女	25	17.4%	56	38.9%	38	26.4%	8	5.6%	4	2.8%	13	9.0%	144
	計	51	19.2%	97	36.6%	68	25.7%	13	4.9%	12	4.5%	24	9.1%	265
70才以上	男	24	23.1%	38	36.5%	25	24.0%	2	1.9%	4	3.8%	11	10.6%	104
	女	13	11.8%	29	26.4%	37	33.6%	11	10.0%	8	7.3%	12	10.9%	110
	計	37	17.3%	67	31.3%	62	29.0%	13	6.1%	12	5.6%	23	10.7%	214
年代性別無回答		2	50.0%	0	0.0%	1	25.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	4
合計	男性計	161	24.7%	249	38.2%	140	21.5%	33	5.1%	35	5.4%	33	5.1%	651
	女性計	158	20.3%	296	37.9%	153	19.6%	72	9.2%	55	7.1%	46	5.9%	780
	性別無回答計	3	60.0%	0	0.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	5
	合計	322	22.4%	545	38.0%	294	20.5%	106	7.4%	90	6.3%	79	5.5%	1,436



<分析>

- 全体では、「間違いを指摘するが深入りしない」が 38.0%で最も高く、次いで「考えを正すように努力する」が 22.4%、「身近な人や関係機関に相談する」は 7.4%である。この「考えを正すように努力する」、「間違いを指摘するが深入りしない」、「身近な人や関係機関に相談する」と答えた人を合わせると 67.8%の人が、差別に気づいた時、何らかの行動を意識している。
- 年代別では、「考えを正すように努力する」は、40 才代の 25.7%が最も高く、70 才以上の 17.3%より 8.4 ポイント高い。「そのままにしておく」は、70 才以上が 29.0%と最も高く、20 才代の 13.8%より 15.2 ポイント高い。
- 年代男女別でみると、「考えを正すように努力する」は、20 才代では女性が 29.0%と同年代男性より 9.9 ポイント高い。だが 30 才代以上の年代は、いずれも男性の方が高い。
「そのままにしておく」は、70 才以上女性の 33.6%が年代男女中最も高く、最も低い 40 才代女性の 9.0%より 24.6 ポイントも高い。また、40 才代男性は 19.6%であり、同年代女性の 9.0%より 10.6 ポイント高い。

【質問14（差別行為への対応）と、質問5-1（身元調査〔結婚〕）との関連】

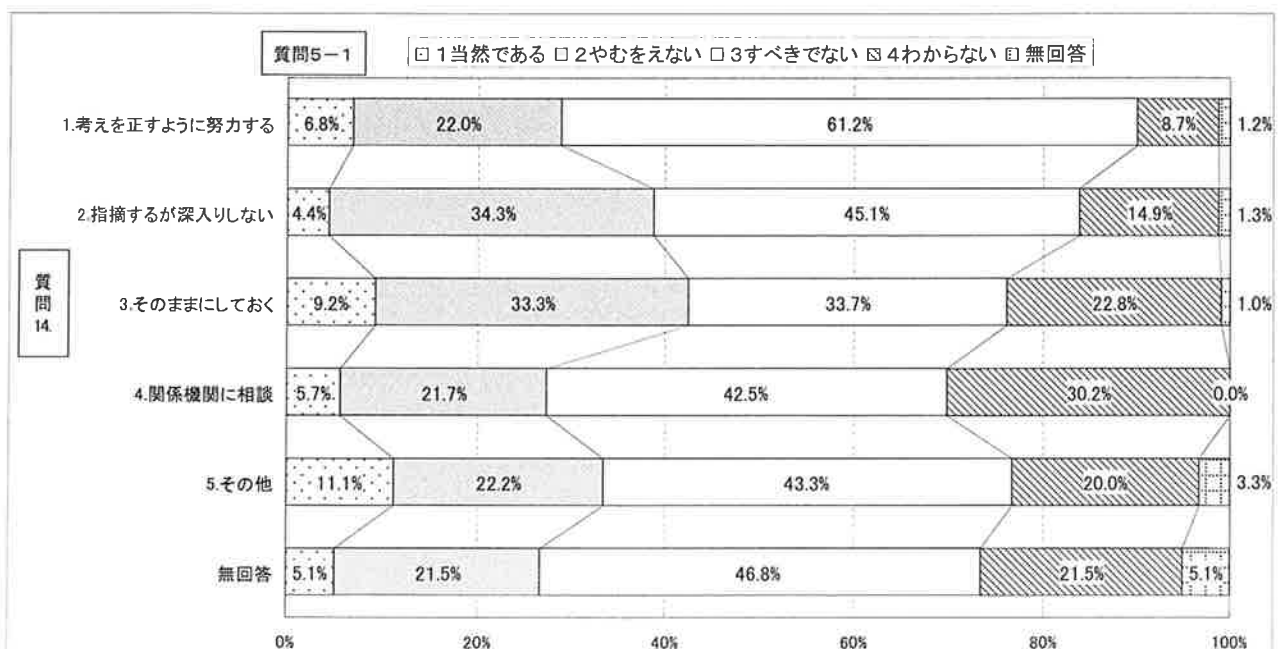
[質問5-1の内容]

結婚のとき、家柄・財産、家族の仕事や地位などの身元調査することを、あなたはどう思いますか。

- 1. 当然である。
- 2. やむをえない。
- 3. すべきでない。
- 4. わからない。

このクロス集計では、結婚にかかわる身元調査の是非について、差別行為への対処方法の違いによる意識や態度の傾向をみた。

質問5-1 \ 質問14	1 当然である		2 やむをえない		3 すべきでない		4 わからない		無回答		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
1. 考えを正すように努力する	22	6.8%	71	22.0%	197	61.2%	28	8.7%	4	1.2%	322
2. 指摘するが深入りしない	24	4.4%	187	34.3%	246	45.1%	81	14.9%	7	1.3%	545
3. そのままにしておく	27	9.2%	98	33.3%	99	33.7%	67	22.8%	3	1.0%	294
4. 関係機関に相談	6	5.7%	23	21.7%	45	42.5%	32	30.2%	0	0.0%	106
5. その他	10	11.1%	20	22.2%	39	43.3%	18	20.0%	3	3.3%	90
無回答	4	5.1%	17	21.5%	37	46.8%	17	21.5%	4	5.1%	79
											1,436



<分析>

- 差別行為に遭遇したときの対応行動の違いと、結婚に関わる身元調査という差別行為に対する意識・態度には相関がみられる。

差別行為への具体的な対応行動である「考えを正すように努力する」と答えた人は22.4%、そのうち61.2%の人が身元調査は「すべきでない」としている。また、「間違いを指摘するが深入りしない」と答えた人は38.0%、そのうち「すべきでない」とする人は45.1%、「身近な人や関係機関に相談する」と答えた人は7.4%、そのうち「すべきでない」とする人は42.5%である。「考えを正すように努力する」人は身元調査を「すべきでない」とする割合が高く、結婚に関わる身元調査は重大な人権侵害で差別行為であると認識し否定していることは評価できる。

一方、結果として差別行為を容認、助長する「そのままにしておく」と答えた人は20.5%、そのうち身元調査は「すべきでない」とする人は33.7%で「考えを正すように努力する」と答えた人の61.2%に比べ約28ポイント低い。そして、33.3%の人は身元調査を「やむをえない」として容認している。

しかし、差別行為に対して「間違いを指摘するが深入りしない」と答えた人も、「そのままにしておく」と答えた人とほぼ同じ34.3%が身元調査は「やむをえない」と容認している。また、「身近な人や関係機関に相談する」と答えた人の30.2%は「わからない」と答えている。これは、結婚に関わる身元調査は重大な人権侵害で差別行為であるとの認識が乏しく、地域社会での生活において人間関係の平穏さを保つことに縛られている意識の状況を表しているといえる。

【質問14（差別行為への対応）と、質問6-1（研修会等への参加回数）との関連】

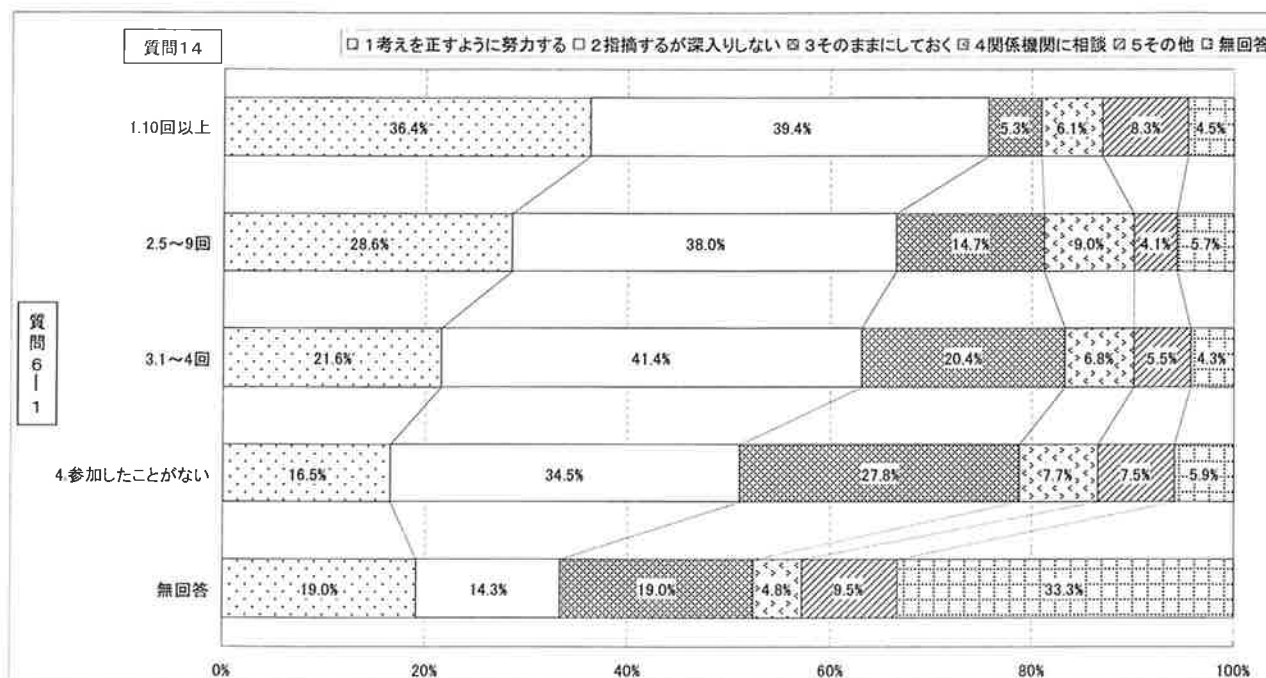
[質問6-1の内容]

あなたは過去5年間に、人権・同和教育の講演会や研修会に参加されたことがありますか。

1. 10回以上参加した。
2. 5～9回参加した。
3. 1～4回参加した。
4. 参加したことがない。

このクロス集計では、部落差別の実際の場面での対処方法について、研修会等への参加回数の違いによる考え方の深まりや意識の変容をみた。

質問14 質問6-1	1 考えを正すように努力する		2 指摘するが深入りしない		3 そのままにしておく		4 関係機関に相談		5 その他		無回答		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
1. 10回以上	48	36.4%	52	39.4%	7	5.3%	8	6.1%	11	8.3%	6	4.5%	132
2. 5～9回	70	28.6%	93	38.0%	36	14.7%	22	9.0%	10	4.1%	14	5.7%	245
3. 1～4回	121	21.6%	232	41.4%	114	20.4%	38	6.8%	31	5.5%	24	4.3%	560
4. 参加したことがない	79	16.5%	165	34.5%	133	27.8%	37	7.7%	36	7.5%	28	5.9%	478
無回答	4	19.0%	3	14.3%	4	19.0%	1	4.8%	2	9.5%	7	33.3%	21
													1,436



<分析>

- 差別行為への対応で「考えを正すように努力する」、「そのままにしておく」の2項目は研修回数の増加との相関が読み取れる。

研修会等への参加回数が増えるにしたがって、「考えを正すように努力する」とする割合は高くなる。「参加したことがない」と答えた人では16.5%、「10回以上」では36.4%と約20ポイント高くなる。

一方、「そのままにしておく」は、「参加したことがない」と答えた人では27.8%、「10回以上」では5.3%と約23ポイント低くなる。他の2項目には顕著な相関は認められない。このことから、学習経験を積み重ねることは差別行為を容認、助長する態度から差別行為を許さない態度への変容が期待できることを示している。

【考察】

- ◎ 差別行為への対応として、何らかの行動を考える人は67.8%である。これは、県の「同和問題についての県民意識調査」〔平成17年（2005年）実施〕、旧赤碕町調査〔平成14年（2002年）実施〕と比較して高いとはいえない。

差別行為への具体的な対応行動として「考えを正すように努力する」と答えた人は町民の2割強、「間違いを指摘するが深入りしない」が約4割弱である。一方、「そのままにしておく」と答えた人は20.5%で、これは同県調査の11.6%と比較し約9ポイント高い。

しかし、この差別を容認、助長する態度は、継続的な学習の積み重ねでその変容を期待できる。問題とすべきは、対応行動で最も多い「間違いを指摘するが深入りしない」とする人の差別行為を許さない態度への変容を促すことであろう。そのためには、日常生活において不公正な事実や差別に気づいた時、無関心や他人事、気づかないふりを装うのではなく、お互いが事実や現実に素直に向き合う人間関係づくりが大切である。それは、地域社会での人間関係の平穏を維持することに束縛されている意識を解放し、自らをエンパワーしていくことでもある。そして、結婚に関わる身元調査は差別行為であるとの気づきと対応行動の変容を期待したい。